**評価問題**

**あなたは今後の人生をどう生きていきたいか。資料Ⅰと資料Ⅱの内容と関連付けて、あなたの考えを書きなさい。ただし、資料ⅠはＡ～Ｃのうち一首選ぶこと。**

**資料Ⅰ**

Ａ：立ちわかれ　いなばの山の　峰に生ふる　まつとし聞かば　いま帰り来む

　 (あなたと別れ、因幡の国に行っても稲葉山の峰に生える松のようにあなたが待つと聞いたならすぐに帰ってきます。)

Ｂ：忘れじの 行末までは かたければ けふをかぎりの 命ともがな

　　(「いつまでもあなたを忘れない」と言うあなたの言葉は期待できないので、その言葉を聞いた今日を限りに死ねたらどんなによいでしょう。)

Ｃ：防人に 行くは誰が背と 問ふ人を 見るがともしさ 物思ひもせず

　 (防人に行く人は誰の旦那さんなのと聞いている人がうらやましい。夫が行ってしまう私とは違って、何も思い悩むこともないでしょうから。)

**資料Ⅱ**

春望　　　作者：杜甫

国破れて山河在り （くにやぶれてさんがあり）

城春にして草木深し （しろはるにしてそうもくふかし）

時に感じては花にも涙を濺ぎ （ときにかんじてははなにもなみだをそそぎ）

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす （わかれをうらんではとりにもこころをおどろかす）

烽火三月に連なり （ほうかさんげつにつらなり）

家書万金に抵たる （かしょばんきんにあたる）

白頭掻けば更に短く （はくとうかけばさらにみじかく）

渾て簪に勝へざらんと欲す （すべてしんにたえざらんとほっす）

|  |
| --- |
| 現代語訳  国の都の長安は戦争で破壊されてしまったが、自然の姿は昔のままである。  町にも春が来て、草木は深く生い茂っている。  このような戦乱の時世を思えば、花を見ても涙が落ちる。  家族との別れを悲しんでは、鳥の鳴き声を聞いても心が痛む。  戦乱ののろし火は、もう何ヶ月も続いていて、家族からの手紙は万金にも値（「あたい」）する（ほど貴重である）。  （悲しみのあまり頭を掻いて）白髪頭を掻けば、（髪が抜けるので）髪は更に薄くなって、簪（かんざし）も挿せなく（させなく）なりそうだ。 |

※注釈　戦乱に巻き込まれた杜甫は身をひそめたりせずに、家族だけを北方に疎開させ、朝廷に役立たんと自らは皇帝のもとに向かう。その途中、安禄山の軍隊につかまって長安に幽閉された。「春望」はその頃書かれたものである。

「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の**解答例**

私は、今後の人生を「家族」を大切にしながら生きていきたいと考えた。

資料ⅠのＣ「防人歌」では、大切な夫が防人として遠く離れた地へ行かなければならなくなってしまったやるせない悲しみを、他人事でいられる人を羨む「ともしさ」の一方で、「物思いもせず」という周囲への嫉妬とともとれる言葉で表現している。

また、資料Ⅱの漢詩では、戦乱に巻き込まれ長安に幽閉された作者が、家族と離れ離れにならざるを得なかった悲しさや、家族の安否を心配する苦しさが述べられている。その思いは、戦乱の世において、「家書万金に抵たる」と書いてあるように、作者が家族からの便りを求める気持ちがあることや、「時に感じては花にも涙を濺ぎ ／別れを恨んでは鳥にも心を驚かす」という作者の精神状態からも読み取れる。これら二つの資料から、兵役や戦争といった、自分ではどうしようもない理由で大切な家族と離れなければならない悲痛さを読み取った。

私が生きる今の時代は、当時とは違って、理不尽に家族と引き離されることはない。だから、その「家族が当たり前にいる」ことに甘えて、今の私は家族と一緒に過ごす時間を大切にできていないように思った。家族に大切だと伝え、行動でも示していくような生き方をしていきたい。

**解答類型**

次の条件を満たしているかで判断する。

①資料Ⅰから一首選び、資料Ⅱと関連付けている。

②今後の人生をどう生きていきたいかを書いている。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １ | ①、②、③を満たしている。 | 正答 |
| ２ | ①③は満たしているが、②を満たしていない。 |  |
| ３ | ②③は満たしているが、①を満たしていない。 |  |
| ４ | 上記以外の解答 |  |
| ０ | 無解答 |  |